

公務災害防止事業の推進

S-KYT研修を実施して

さいたま市消防局総務部消防総務課
主任 塚原 知昭

1 さいたま市について

さいたま市は、埼玉県の南東部に位置し、都心から20～30キロメートル圏内にある県庁所在地です。

平成13年5月1日に旧浦和・大宮・与野の3市合併により誕生し、平成15年4月1日には全国で13番目の政令指定都市へと移行しました。その後、平成17年4月1日の旧岩槻市との合併を経た後、一昨年、さいたま市誕生10周年を迎え、現在10行政区に人口124万6千人（平成25年4月1日現在）を擁する都市に成長しました。

また、古くは中山道の宿場町として発達してきた歴史を持ち、明治以降は埼玉県の中心として行政、経済、文化を常にリードしてきました。平成12年には市の中央部に位置する旧国鉄操車場跡地に関東甲信越地方を所管する国の機関及びさいたまスーパーアリーナを始めとする、より広域的な行政機能や高次の業務、商業、文化機関を有する施設が集積した新しい街「さいたま新都心」が誕生し、現在も関東圏を牽引する中核都市として飛躍・発展を目指しております。

本市の消防団は、1消防団63分団で構成され、1,332人の団員が一丸となって市民の安心・安全を守るため活動しています。

2 研修実施の経緯

消防活動には、目に見える危険だけでなく多種多様の危険が潜んでおり、これらの危険に対する感受性を鋭くし、現場活動等において適切な対応能力と知識の向上を図り、公務災害の発生を防止

するため、年間研修計画において「消防団危険予知訓練」の実施を位置付けています。

昨年度は、2時間コースを実施しましたが、来年度に県消防操法大会への出場を控えていることから、安全管理と事故防止への注意を喚起するため、今年度は3時間コースを実施したものです。

3 研修の様子

研修は、平成25年7月6日（土）さいたま市防災センターにおいて実施しました。

60人の団員が参加し、「指差し呼称・指差し唱和」の声を出して動く実技が始まると、指導員のかたの声に応えるように大きな声で訓練していました。



また、経験豊富な指導員のかたがたの「生きたアドバイス」に耳を傾け、大きく頷いている様子も見られました。

「危険要因と捉え方」では、分団長から団員まで、経験差に関係なく一人一人が現場に潜んだ危険を

考え列挙し、「4ラウンド法」でどうすれば危険を回避できるか全員が納得できるまで真剣に話し合い、大きな声で指差し呼称を実施して、研修の最後には全員が充実感に満ちた表情を浮かべていました。

研修アンケートでは、「現場での危険を再確認できた」、「指差し呼称などの確認動作の必要性を感じた」などの意見が多数見受けられ、たいへん有意義な研修であったとともに、今後も継続して実施していきたいと考えます。

